

東京学芸大野球部

高校野球や中学野球部の指導者の多くは、学校の教員だ。大学野球に励む選手の中には将来、教員になって子どもたちに野球を指導したいという学生もいる。

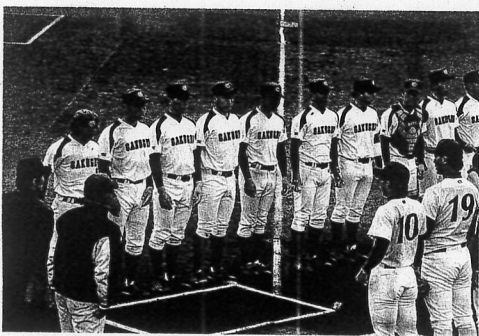
東京学芸大(東京都小金井市)は教員志望の学生が多い。今春の選抜高校野球大会に出場する学校では、土佐(高知)の西内一人監督、釜石(岩手)の佐々木偉彦監督が同大出身。プロ野球では北海道日本ハムの栗山英樹監督がOBだ。

野球部はいまは東京新大連盟の2部に所属している。

スポーツ 一期一会

手束 仁

指導者の育成にも力



かつては1部でリーグ優勝を果たし、全日本大学選手権に出場したこともある。だが、

近年は同連盟では創価大や流通経済大が力を付け、各私大はスポーツ推薦枠で有望選手を入学させるといった方法などで強化を進めている。

国立なので苦戦を強いられるなか、OBの中野春樹氏が昨年11月に監督に就いた。埼玉県の高校教員を定年退職し、大学野球で指揮を執ることになった。

対戦前にあいさつする東京学芸大の選手たち。5日、東京都武蔵村山市の東京経済大グラウンドで

中野監督は埼玉では越谷西を率いて甲子園出場を果たしている。春日部東監督時代には浦和学院や春日部共栄、花咲徳栄といった私学の強豪と

互角に戦い、県大会で準優勝2回、関東大会にも出た。

春日部東時代から「若い指導者を育成していかなくてはいけない」との思いで勉強会を開催。自身も積極的に研究会に参加している。

大学での目標は「2部優勝、1部昇格」だけでなく、「指導者の育成」も重要なテーマとして掲げる。

選手たちと信頼関係を築くところから始め、いまは対話の中で選手たちの疑問や悩みを耳を傾け、一緒に考えていく姿勢を重視する。「吸収力が高い選手たちだから、伸びしろは十分ある」と好感触を得ている。

全国屈指の進学校、開成(東京)出身で当たれば長打も出る主砲の長江豊は「もっと打てるようになりたい。何でも教えてほしい」と積極的な姿勢を見せている。

高校野球で幾度となく高い壁に挑み、乗り越えてきた中野監督。東京学芸大の躍進に期待したい。(スポーツジャーナリスト)